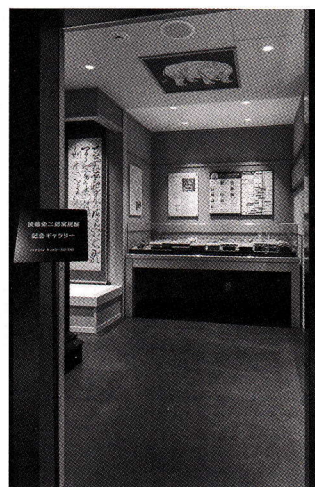


後藤象二郎寓居跡記念ギャラリー

竹井 隆人

(株)都市ガバナンス研究所代表・政治学者



本年六月一日に河原町三条二筋下ル東入ルの後藤象二郎寓居跡に記念ギャラリーがオープンしました。私は本地でのホテル開発をプロデュースした者ですが、本地にはもともと寓居跡を示す石碑や駒札が建立されていたことを知り、本ギャラリーの併設を提案し、その企画監修を担当しました。

ギャラリーの主な展示品には幕末当時の街並みを再現したジオラマや、パークス襲撃事件で暴漢を撃退した象二郎に英国女王が御礼として贈った宝剣(複製)、象二郎自筆の書簡や漢詩などがあります。私の狙いとしては、当節、あらゆる方がスマホ片手に訪れ、スマホに「後藤象二郎」と打ち込めば瞬時に人物の概略を知り得てしまうことを想定し、そうして得られる通俗的情報とは異なる情報発信をすることにありました。とくに、あまり龍馬ファンを刺激したくないですが、巷にはまことしやかに流れている「象二郎が龍

馬による(大政奉還成就の)功を奪った」という俗説については、むしろ世間では龍馬の評価が高くなりすぎて、象二郎の方が割りを被って不当に評価が低くなっている面が少なくないように感じるので、それを正すべく詳しく解説することに努めました。

また、再現ジオラマでは視覚的に龍馬と象二郎の深い関係性が伝わるよう意識しました。すなわち、象二郎の寄寓した醤油商「壺屋」と、龍馬の寄寓した材木商「酢屋」との間には京劇(現在建替え中)などの建物があつて現代人には想像しにくいのですが、再現ジオラマでは当時はこの双方の建物の間は「五之舟入」であつて、双方の間には遮蔽物がなく互に声を掛ければ届く位置にあつたことが確認できるようにしています。なお、龍馬が大政奉還成就の時期に、後に遭難する醤油商「近江屋」に寄寓先を移った理由が、身辺警戒などとされて判然としていませんが、同時期に象二郎が寄寓先を土佐藩邸に移したという情報もあり、龍馬は象二郎に合わせて、より同藩邸に近い「近江屋」に移った側面もあるのではないかと想像します。

ぜひ御来館、御笑覧の上、ご意見など賜れば幸いです。

【所在等】

京都市中京区河原町通三条下の大黒町ホテルリソル京都河原町三条一階
九時開館二十時閉館 入場無料

いざ、嵐山へ!!
もうひとつの京都がここにある

保津川下りの父
角倉了以
(角倉了以木像 / 大悲閣千光寺蔵)

創業
慶長11年
保津川下り
亀岡から嵐山までをつなぐ約16kmの保津川を船頭の巧みな操縦はきで下る約二時間の船旅。歴史は四百年以上続き、創業者は江戸時代の豪商角倉了以。現存する川下りとしては日本最古で、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々に景色を変え、雄大な自然を満喫できます。

ご予約・お問い合わせ 〒621-0005 京都府亀岡市保津町下中島2
保津川遊船企業組合 TEL 0771-22-5846

日本コロムビア(株)専属 新内弥栄派家元

新内 枝幸太夫

「龍馬ありて」好評発売中

新曲「椿道成寺」

咲きこぼれる「椿道成寺」に
舞い遊ぶ瑞々しき唄ごえ

2018年1月24日 発売
COCA-17412 ¥1,204 + 税



新内枝幸太夫事務所
〒604-8076 京都市中京区海老屋町 323-703 TEL075-252-5147

近時新聞 第三十二号 禁転載

慶応三年二月二十二日龍馬は下関の伊藤助太夫方より、長府藩士三吉慎蔵宛に「近時新聞」と題し五箇条の最新情勢を伝える手紙を送っています。幕末維新史研究に関わる先生方の最新成果を掲載する京都龍馬会の会報名にこそふさわしいと考えます。年四回発行いたします。

平成三十年六月十五日発行

編集・発行者

〒六〇四・八〇七 京都市中京区木屋町通

六角下ル 材木町一八四 都会館「龍馬」

特定非営利活動法人京都龍馬会

理事長 赤尾 博章

TEL/FAX 〇七五・二一一・三六六六

http://www.ryomakkyoto.jp

挿絵 中野良子

龍馬が暮らした街にある お酒の呑める坂本龍馬情報交差点

京都木屋町
龍馬

営業時間 19:00 ~ 25:00



「坂本龍馬妻お龍独身時代寓居跡」石碑前
京都市中京区木屋町通六角下ル材木町 184「都会館」
TEL/FAX 075-211-3666 www.kyoto-ryoma.jp